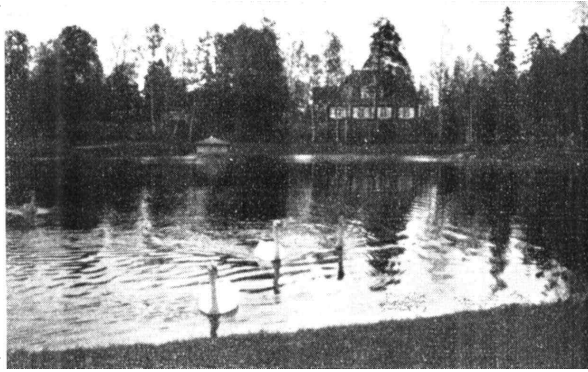


ヨ ヲ ヲ ヲ 旅 路

丹 羽 恒 夫



ニ ブ ロ 公 園

6. 空路ニブロ (Nybro) へ

地図を片手に漸く歩きなれたストックホルムにわかれをつけることとなり 10 日早朝の飛行機で出発することとなった。

始め日本を出るとき汽車を利用することにしていたのであるが、中央駅で調べると汽車も相当多く、路線をえらぶのに大変で乗り換えも多く面倒になったので地図を調べると、ニブロの近くにカルマ (Kalmar) と云う町があって、そことストックホルムと中間の大きな島にビスビイ (Visby) という観光地があるので 1 日数回飛行機が飛んでいるらしいから、これを利用することとした。

前回に書いたようにカルマーまで Kahrs 社の人が迎えに来てくれると云う連絡を 9 日に入手してあったので、Kalmar - Nybro 間の汽車の時間の心配はなくなった。

ストックホルムで 5 日間滞在したホテルはパレスホテルと云い、その名前は偶然にも出発時飛行機がなくて日航が世話した東京のホテルと同名である。

東京のパレスホテルは開店早々で有名なホテルだそうであるが、夜だけ泊ったのでホテルの内部はくわしくわからず、このホテルとどちらがよいか - - わからない。

私の泊ったストックホルムのこのホテルは 10 階か 11 階位のホテルで 1 階にはバー (これは日本流のバーである。) 等があるが一部は自動車の販売所らしい。私の泊った室は 8 階で食堂と同階、シャワートイレ付である。室内は入口近くの壁面に、目ざましと押しボタンがあり、目ざましは円周が 24 時間きざみになって、これに指針をあわせるとその時間にベルになる仕掛けとなっています。押しボタンは三コありラジオとなっていて三局分が入っていて好きな局のをきけま

す。

各階の要所には共同のトイレ・洗面所があり、トイレ付きでない室の人は、これを使用するが、その扉には各々紳士、御婦人の形（勿論服装の）をきり抜いたアルミニウム板が貼ってあり、子供にもすぐわかるようになっています。

北欧の秋の早朝は暗く、前夜より予約してあったタクシーに乗りこんだのは朝 6 時、真暗である。

プロマ飛行場へ到着したのは 15 分後であり、国内線なので手続は簡単で SAS のローカル線、即ち SAS - Lin のプロペラ機に乗りこんだ。

飛行機は定刻 6 時 40 分プロペラの騒音と共に出発、翼下に薄霧、ストックホルムの屋並をこえ、雲中に入ってしまった。

途中ピスピイに着陸したが草の中の簡単な飛行場である。ピスピイは大きな島の古城のある一都市でスウェーデンの観光地であり、夏は人が集まるそうである。着陸前にちらっと古城らしきものが見える。

この飛行場に 10 数分とまり再び雲上へ、カルマには 9 時到着の予定であったが 5 分おくれた。この飛行機は放送設備がないとみえてスチュワーデスが到着の時間を教えてくれた。

カルマの飛行場は小さな飛行場で滑走路は 1 本しかなく、全く田舎の駅みたいな感じである。飛行場の周囲にも町らしい町は全然ない。

空港事務所で荷物をうけとっている物静かな声で英語で呼びかけたスウェーデン人が居る。この人が私をあと 1 週間ばかり世話をしてくれたフリック氏（Mr. Flinck）であった。直ちに彼の運転する車で Nybro へ向う。沿道は農場と、径級の小さい林の中での舗装された立派な道路である。点在する農家は赤い屋根、白壁、赤壁等賑やかなものである。約 30 分でニブ

ロへ到着する。

ニブロは樹木にかこまれた静かな小さな町で泊ったホテルはストラホテル（Stora Hotellet）といい、この町唯一のホテルで町役場とつながって居りこのホテルのレストラン（Restrang - スウェーデン語）は町の社交場らしい。

ホテルで朝食をとりフリック氏は午後 1 時頃むかえにくるから、それまで休めと云う。室は 3 階の玄関の真上で、玄関前の噴水のある広場がみえる大きな室でバルコニーのある古典的な感じのする室で、バス、トイレ付、一人ずまいには勿体ない位広い室である。

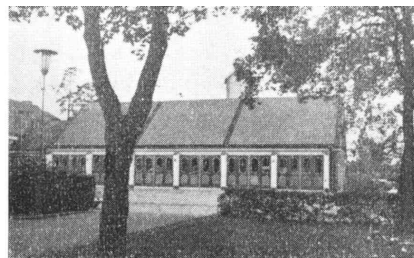
午後 1 時仕度をしてロビーに降りてみるとフリック氏が迎えに来てくれ Englishman と彼の Wife と硝子工場へ行こうと云う。始め Englishman と云う人の工場かと思ってよくきいてみたら、Kahrs 社に来ていた英人夫妻のこらしく自分の自動車をもってきていて商用カタガタ観光に車を走らせているらしい。

この硝子工場は Kosta と云い 1800 年代よりカットグラスその他美しい硝子製品を作っていた工場である。始め kahrs の工場へと思い写真機を用意しなかったのが残念であった。途中の景色は古い教会、湖あり森林ありで全くすばらしい。道路は田舎道であるにかかわらず、舗装してあり乗り心地もすばらしい。運転席のフリック氏は肩から斜下にバンドをしめるので、きいてみると、郊外の自動車道路で長距離を走らせる場合バンドをしめるのがスウェーデンの交通規則らしい。

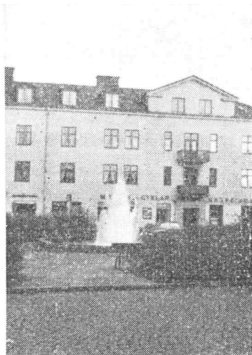
始め kahrs の工場へと思い写真機を用意しなかったのが残念であった。途中の景色は古い教会、湖あり森林ありで全くすばらしい。道路は田舎道であるにかかわらず、舗装してあり乗り心地もすばらしい。運転席のフリック氏は肩から斜下にバンドをしめるので、きいてみると、郊外の自動車道路で長距離を走らせる場合バンドをしめるのがスウェーデンの交通規則らしい。



ホテル裏にある警察署
玄関の Polis と云うのが赤いネオン



警察署横にある消防署
この扉が開くと消防車の出動となる



ホテル前の噴水
向側の 1 階は商店



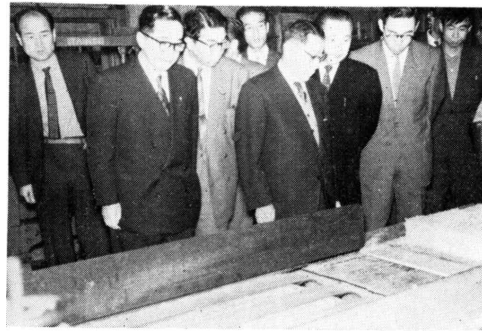
ストラホテル玄関
2 階の 日ヨケのある所がレストラン

途中、近くに小学校があるので通学の子供にあったが田舎で各自の家まで距離があるとみえ自転車通学らしく途中でずいぶん会う。しかしこの子供達をみかけると自動車は可成のスピードを出していてもすぐ減速し、子供の傍を通るときはゆっくり走するようにしている。これでは交通事故はおきないであろう。全くうらやましい。

この工場製品の展示場と工場は別々にあり、まず展示場を見学した。すばらしい製品が多く大きな室が6つ位あって、きれいにならべられ、觀賞に便にしてあり、決してゴテゴテと並べていないので気持ちが良い。カットグラス等はきれいに細工してあり、外人は不器用と云うけれどすばらしい手細工である。

- 林指合板研究室 -

川 島 長 官 の 視 察



パーティクルボード製造工程を興味深く視察の川島長官

第二期道総合開発計画の決定を機に、道内視察中の、北海道開発庁長官川島正次郎氏は、田中政務次官、木村総務監理官を滞り、5月18日当所を視察された。この日道からは、松尾文教林務委員長、桶谷道義、小林林務部長等も同行、午前11時当所に到着、黒田所長より、当所の研究

内容や、ここで研究開発した、ロール合板、パーティクルボード、ファイバーボード、木材糖化の各種製品等について御説明の後、中間試験工場を視察された。特にロール中芯の成型装置や、集成材による、柱、

敷居、南極観測に使用した犬糞、小径木や工場副廃材、ネマガリダケを原料とするパーティクルボードの製造過程等の、所長の御説明には興味をもたれ、長く足を止めて、視察予定時間をはるかに超過された。それでも当初の視察予定箇所の、リグニン樹脂の製造試験、鋸目立教習所、木材糖

化試験工場、鋸屑の連続炭化試験等は省略、72才の御老体で連日の強行軍にもかかわらず、極めて御元気に秘書の再三の予定時間超過の知らせに、心残りらしく、退所された。

うごき

退職

- ・庶務課勤務、主事朝倉和子氏は7月10日付で退職された。
- ・会計課勤務、事務補唐沢桂子氏は7月12日付で退職された。
- ・新規採用
事務補、伊藤ミサ子氏は7月20日付で採用、庶務課

勤務

技術指導

- ・中川技師、小西技師、6月16、17日日本フローリング検査協会主催フローリング技術講習会に講師として派遣
- ・小西技師製材工場の設計指導のため7月25、26日北見市に出張